

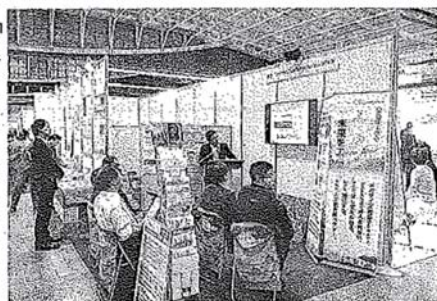
仰ぐ産業未来像

東証マザーズの時価総額ランキングのトップ10のうち、約半数はバイオベンチャーであることをご存知ですか。今や、バイオ医薬品開発における新しい技術の多くはベンチャーが開発し、大手製薬企業はベンチャーの技術を買う時代です。バイオベンチャーの生き残り合戦は厳しいですが、新しい技術や産学官の連携に国内外大手企業、ファンドが大きな期待と関心を寄せているのです。頭脳集約型産業であるバイオベンチャーは、研究開発の比重が高く地の利の影響を受けにくい。地方から世界を相手に勝負できる可能性があります。その戦略の一つが2013年に文科省に採択された「地域イノベーション戦略事業」であり、「とっとりバイオ

鳥取から世界で勝負するバイオベンチャー

フロンティア」は「鳥取次世代創薬・健康産業創出地域」の産学官の橋渡し拠点として、研究開発から事業化までをシームレスにするための施設整備や人材育成、さらには県外研究者の集積、共同研究を推進しています。

このような状況の中、一昨年から新規バイオベンチャーが県内に3社立ち上がりました。鳥取大から2社、そして、鳥取県産業技術センターから1社です。これらに共通する点は、県内で研究開発された技術が県内



「BioJapan2015」のバイオフロンティアブースの様子

研究開発された技術が県内で事業化されていることであり、地方特有の資源を活用した独自の新産業が根付き始めていると言えます。とっとりバイオフロンティアは、バイオ系大型専門展示会に出展し製薬企業とのマッチングなども行っており、「BioJapan 2015」では上記のベンチャーを含む県内バイオ関連企業7社が参加し、県内バイオ産業のマーケット拡大に努めました。今後も、産学官が一体となって県内のバイオ産業を盛り上げ、新たな経済効果をもたらすことに取り組んでいきます。

とっとりバイオフロンティアPR動画「最先端の染色体工学技術が産み出す産業応用への限らない可能性」はYouTubeで見ることができます。
(鳥取県産業振興機構バイオフロンティア推進室 高原昇子)